



ふうふう村のおいしいスイカができるまで

(2013年)

私たち夫婦は、どうすれば「もっとおいしいスイカ」が作れるのか、1年中考えながら、毎年スイカを作っています。どんな理論上では良い方法でも、気象状況が大きな影響を与えることが多いのです。

そこで、天候に左右されない丈夫なスイカを作るため、土作りからこだわって、色々取り組んでいます。それは、他の野菜作りにも生かされることです。

しかし、いくら頑張っても、自然には勝てない時もあります。雨は、土を酸性にしてしまいます。多くの野菜は酸性土壌を好みません。スイカは特に雨を嫌います。雨が続くと病気になるてしまいます。人間も体が酸性になると病気になるります。スイカも同じなのです。

病気になるると、つるや葉は死んでしまいます。そうすると、おいしいスイカはできなくなります。おいしいスイカは、健全な葉があってこそできるのです。

そのため、予防として、2~3回の農薬散布をします。

農薬といっても、日本の安全基準は外国に比べても、かなり厳しく、散布後は、ほとんどが土中で無害なものに分解されるので、安心して食べられるのです。

無農薬が絶対に安全かという点、必ずしもそうとは限りませんが、とも言われています。

なぜなら、野菜たちも、虫に食べられるばかりで無抵抗でいるわけではないからです。虫に食べられまいと必死になつた野菜が分泌する成分には、発ガン性物質が含まれているものもあるらしいのです。(全ての野菜がそうするわけではありません)

ですから安心して下さい。



おいしいスイカを作るため、シーズンが終わるとすぐに、つるや、下に敷いておいたヨシを集めて燃やします。その後、畑を耕やし、えん麦という麦の種をまいて、土中に残った養分を吸収させます。そのえん麦が成長したら刈り取ってしまいます。



3月になると、有機肥料等を畑にまいて耕やし、スイカの苗を植え付ける4月中旬まで、そのままおいておきます。



4月、いよいよ苗の植え付けです。1本1本「おいしいスイカができるように。」と願いながら植えていきます。この頃はまた寒いので、ホットキャップというビニールで保温してやります。(ミニ温室です)



5月、川のヨシが伸びたらヨシ刈りをします。この作業がスイカ作りで1番の重労働です。川に膝立を降ろし、人の背丈より高くなったヨシを刈っては束ねては、それを持って脚立を登り1束20kg以上はある束を両手に1束ずつ持ち、軽トラの荷台が一杯になるまで、20m程の所を何往復もします。次の日は2人共全身筋肉痛です。このヨシ刈りは、スイカのつるの成長と共に敷いていくので、7週くらい続きます。



6月には、堆花が咲き始め、天気が良ければ授粉が始まります。授粉しても、4~5時間以内に雨が降ると流れてしまい、着果しません。今年は、梅雨の始めが空梅雨だったので、早く実が生り絡んでいたのに、本格的な梅雨になり、授粉できなくなって、ハラハラしました。でも、梅雨が早く明けてどんどん授粉して、安心です。

次々と実が生るのは良いのですが、ハクビシンやカラスに食べられないように、1コ1コに手作りカゴをのせ、日付けをつけなければなりません。つるを踏まないように、つるをよけながらスイカの所まで行くのは至難の業です。

カゴをのせて、日付けをつけたら約1ヶ月で収穫です。その間、雨が降らないよう、病気にならないよう祈るばかりです。



7月、ようやく収穫の時がやってきました。しかし、これがまた重労働です。カゴののせの時と同じように、つるを踏まないよう気を付けながら、スイカの所まで行き、6~10kgくらいになったスイカを持って、畑の外に持ち出す作業も大変です。

全国のスイカ農家も高齢化で、この作業が大変で辞めてしまう人連が増加していると聞きます。そのくらいの重労働です。

収穫したスイカを城川町から松山まで運び、キレイに洗い、計量し、値札を貼り、ようやく店頭で並びます。

これだけの重労働をしてまで、なぜスイカを作るのかと疑問に思われるかもしれません。

それは、「おいしいの声を星の数ほど聞きたくて...」という当店のテーマそのものです。

「おいしかった!!」「よそのスイカは食べれん!!」

「こんなスイカは初めて食べた!!」

こんな声が何よりの喜びなのです。

これからも、おいしいの声を
星の数ほど聞くために、
私たちは努力を惜しまず
頑張、ていこうと思っています。

お座敷スイカ

今年、今まで使用していた黒マルチシートをやめて、たたみ屋さんからたたみ表をもらって来て、畑に敷き、その上にヨシを敷きました。昨年、実験的に1つの畑を使用したら、畑に良い効果がいくつもあり、環境にも良いので、今年はこちらあるスイカ畑全部に使用しました。全部で1000枚くらい使用しました。地元では、「お座敷スイカ」と呼ばれているんです。



私たちと一緒にスイカを作ってくれている山内農園さんです。



スイカ作りに関わって頂いた方々

「ご協力ありがとうございました。」



和尊和楽ふうふう村
上杉 清春